

日本植物園協会ナショナルコレクション申請書

新規申請

更新申請（認定番号 認定期間 年 月 日～ 年 月 日）
（いずれかに ）

■申請年月日

2021年3月5日

■コレクションのテーマ

中部のツバキ品種コレクション

■申請団体・申請者名

公益財団法人 名古屋市みどりの協会 鶴舞公園事務所

（「中部のツバキ品種保全ネットワーク（仮称）」を発足する予定であり、発足以降は申請団体名の変更を行う。）

■申請団体の代表者名（個人での申請の場合は不要）

公益財団法人 名古屋市みどりの協会 鶴舞公園事務所

所長 佐々木 辰夫

■申請団体・申請者の連絡先（住所、電話、メールアドレス）

非公開

■コレクションの所在地（コレクションが分散している場合は主たる所在地）

主たる所在地：名古屋市東山植物園（愛知県名古屋市千種区 東山動植物園内）

■現地審査希望時期

2021年3月～4月

希望する理由：今回申請する品種の内、その多くが開花する時期に審査を希望します。

■コレクションのテーマ

中部のツバキ品種コレクション

■コレクションの概要

「中部のツバキ」は、尾張を中心に三河、伊勢、美濃など中部地方において、江戸時代から続く茶道・華道の繁栄から収集、作出されたツバキの総称で、独自の伝統と風土に合致した郷土のツバキとして成立した。早咲き品種の積極的な作出によって、「紅妙蓮寺」（べにみょうれんじ）、「参平椿」（さんぺいつばき）など花の少ない晩秋から初冬にかけて開花し、長期間観賞できる品種が多く、愛好家も多い。また、茶道の影響を受けることで「磨墨」（するすみ）、「秋風楽」（しゅうふうらく）など薄暗い茶室に映える白花や、「細雪」（ささめゆき）などの一重咲き、「白八朔」（しろはっさく）、「常満寺」（じょうまんじ）のように筒咲きの形質を持ったものなど、いわゆる茶花向きの品種が多数作出された。他に、名古屋城門外不出の「御殿椿」である「大城冠」（だいじょうかん）や熱田神宮由来の「太郎庵」（たろうあん）なども中部のツバキとして名を連ねる。

中部のツバキについて、京都園芸倶楽部幹事の渡辺武氏は、中部椿協会の会誌『椿』創刊号（1968年発行）において「中部のツバキはユキツバキや肥後ツバキのように特徴ある一定の花型を持ったものものではありません。名古屋を中心にして残され、育成された旧尾張藩のツバキを主体にしたツバキの総称です。その地理的、政治的、文化的条件から、そこには茶道・華道・造園の要素として関西系京ツバキの清楚優雅にして格調高い品種があり、尾張徳川家に関連して豪華絢爛な関東系江戸ツバキの品種もあり、また北陸と京都との中継地として、ユキツバキ系の多彩な品種が見られます。中京の人たちの文化的素養の高さと園芸に関心の深いことから、今日では本来の京都にも東京にも失われた品種も保存され、またそれをもとにして新しい椿花も改良育成されています。そこには京ツバキの文人好みと江戸ツバキの武家好みのツバキ、それに肥後ツバキ、伊勢ツバキ、ユキツバキなどの要素も含めた、きびしい中京人の観賞眼を通して残された、日本のツバキの集大成というべき多彩なものが見られます。」と述べている。また名古屋椿協会の永田鋭明会長（当時）は同会誌で、「渡辺武氏の説明文は、中京のツバキを良く解説されているが、一つ付け加えたいのは、中京ツバキは、多くのツバキの中から一重筒咲盃型のツバキを中京にのこし、さらにそれを改良し、日本のツバキの特徴である「わび」と「さび」とを備えたものである。」と加えた。

本コレクションの大部分は東山植物園で保存している。1981年3月、名古屋市内12ロータリークラブの協力により、中京地方（主として愛知県・岐阜県南部・三重県の太平洋岸地方）のツバキ品種群を意識して導入し、東山植物園内に椿園を整備した。その後も、前田ナーセリー（名古屋椿協会、葵カメラアソサエティー会員）からの歴史ある品種寄贈や、専門業者からの購入によりコレクションを充実させることで、中部のツバキ品種群として収集と保存がなされてきた。東山植物園では1981年から約40年間、栽培と展示管理（更新も含む）を継続して行っており、幹回りの胸高直径が100mmを越すような古い株も約100株保有している。

本コレクションは、「中京椿」、「尾張椿」と呼ばれているツバキを含め、『現代椿集』および『現代椿集2』（講談社）、日本ツバキ協会編『日本ツバキ・サザンカ名鑑』（誠文堂新光社）、日本ツバキ協会編『ガーデンライフ別冊 原色日本のツバキ写真集 千椿集』

(誠文堂新光社)の書籍のいずれにも「中部」、「愛知」あるいは「尾張」のいずれかの産地記載がある品種を「中部のツバキ品種」と定めて、申請を行うものである。

(参考文献)

中部椿協会『椿』創刊号(1968)

日本ツバキ協会『現代椿集』講談社(1972)

日本ツバキ協会『現代椿集2』講談社(1978)

日本ツバキ協会編『ガーデンライフ別冊 原色 日本の椿写真集 千椿集』誠文堂新光社(1979)

日本ツバキ協会編『日本ツバキ・サザンカ名鑑』(誠文堂新光社)(1998)

■申請者が保有するコレクションの種数、品種数、個体数(保有植物リストおよび写真は、別紙「保有植物リスト・写真ファイル作成要領」にしたがい提出)

中部のツバキ品種 52 品種 154 株

■申請するコレクションのこれまで報告されている総数と申請者が保有する数

参考文献に掲載されている中部のツバキ総数 70 品種の内、約 75%にあたる 52 品種を保有・展示している。

■コレクションの栽培管理状況(所在地が分散している場合は、ここに全てを列記)

名古屋市東山植物園 52 品種 150 株

徳川園 3 品種 4 株(愛知県名古屋市東区徳川町)

基本的に露地栽培としている。東山植物園では、新規に導入した苗や虚弱な品種、個体数の少ない品種について、バックヤードで保管・養生したのち、露地栽培が可能と判断したものについて追加植栽をしている。緑地造園系の植物管理スタッフ 5 名で栽培管理(枝抜き、更新剪定、施肥など)を定期的に行っている。枯死した場合や、観賞価値が著しく低下したものについては、新しい苗を都度補植しながら更新維持しているが、経験上、東山植物園の植栽環境に適応しないと判断した場合には、再植栽せず、その品種を目録(台帳)から削除している。

■コレクションの導入記録及びデータベース化の状況

東山植物園、徳川園においては、保有している品種を管理台帳および植栽図面(いずれも紙媒体)にて管理。

■コレクションのラベル表記状況（栽培管理用ラベルや展示用サイン・ラベルなど）

東山植物園では露地栽培の個体には、展示用樹名板を設置している。樹名板には花の写真、科名、品種名（漢字表記・ひらがな表記）、学名、特徴の説明文、花期（開花月）を表示しており、中部のツバキには「中京椿」の表示をしている。複数植栽されている品種については、各個体に管理用ラベルを取り付けて個体管理を行っている。

■コレクションへの協力団体・協力者（種名の同定、導入など）

- ・品種名の同定、導入、適切な育成管理指導等
前田ナーセリー（愛知県豊田市西岡町）
椿園株式会社（愛知県稲沢市祖父江町）
- ・歴史・文化等についての助言、資料提供等
名古屋園芸株式会社（愛知県名古屋市中区東桜）

■コレクションの長期保存のための方策と体制（増殖、栽培管理上の工夫、栽培技術者や後継者の育成、危険分散等）

2021年度中には、名古屋市みどりの協会、名古屋市東山植物園、名城つばきの会、名古屋椿協会、葵カメリアソサエティー等、この地方で椿花の保全に努めている各施設、団体、個人により、品種保全のための情報ネットワークを構築して「中部のツバキ品種保全ネットワーク（仮称）」を発足する予定である。

- ・基本的には自然樹形で育成しているが、定期的に樹高を下げるための更新剪定を実施。
- ・今後、虚弱な品種、個体数の少ない品種については、複数施設にて保有し、危険分散を図る。
- ・これまでの栽培経験から判明している虚弱な品種等については、挿し木又は接ぎ木によって、各施設のバックヤード又は前田ナーセリー、椿園株式会社等、協力団体の圃場に依頼してこれらの個体増殖を図る。
- ・「中部のツバキ品種保全ネットワーク（仮称）」の各施設で保有するツバキの電子データを作成し集約するとともに、年に一度更新を行い、共有する。また各施設にある既存のツバキの品種名を同定し、保有数に加えていく。
- ・中部のツバキとして相応しい品種については協議を重ね、新たに追加していく。
- ・「中部のツバキ品種保全ネットワーク（仮称）」の有識者による枝変わり等のチェックを定期的に行い、先祖返りの無いよう適切な対処を行う。

■コレクションの公開の現状と今後の方針、これまでの広報・利用実績（研究等を含む）

- ・コレクションの公開の現状、これまでの広報・利用実績

ほとんどの品種については、すでに東山植物園「椿園 中京椿コーナー」において、品種ごとに展示用樹名板を設置して通年公開されおり、多くの市民に楽しまれている。東山植物園のウェブサイトや、植物園ガイドボランティアが調査・作成している花マップを活用し、来園者に開花情報をお知らせしている。

それぞれの施設ごとに「ツバキ展」を開催し、チラシ、ホームページ等にて広く公報している。展示品種の主要なものとして中部ツバキを含めた展示を行っている。

・今後の方針

現在はコレクションのほとんどを名古屋市東山植物園が保有しているが、今後はそれに加えて名古屋市内の各公園等、複数施設が連携して分散保有を行い、保全を進める。

現在、それぞれの施設ごとに「ツバキ展」を開催しているが、「中部のツバキ品種保全ネットワーク（仮称）」発足後は、各施設が連携した催事を行う。名古屋市内の複数施設が、中部のツバキの普及や文化の解説等、共通した内容の展示や広報を同時期に行っていくことで、この地方のツバキが、茶の湯の文化の発展を支えていた茶道・華道・造園の要素や独自の伝統と風土に合致した郷土のツバキとして成立した「中部のツバキ」として後世に伝え残していくべきものであることを市民に広くPRしていく。